

リベラルアーツとしての読書のアニメーション 2023.9.22

講師：上原明子（沖縄キリスト教学院大学・短期大学 図書館長）

【はじめに】

本日は講演というより、ファシリテーションにご参加なさるつもりで、一緒に学びの時間を過ごしていただければと思います。

10の「問いかけ」をします。

「？」を考えることで、参加なさる皆様のココロが「アニメーション」されますように。

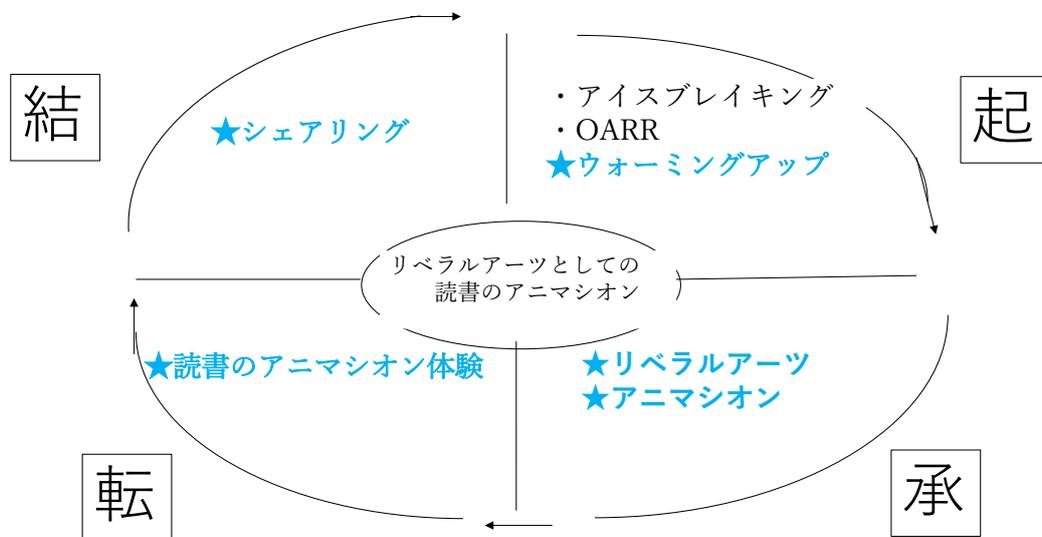
私は、ファシリテーターの上原明子です。

ファシリテーションとは、乗組員がゴールを目指して漕ぐ小舟をイメージしてください。

ファシリテーターとは、舟の舵取りの役目です。

本のページをめくるように…何が書かれているがワクワクするように…

この学びの小舟と一緒に漕いで、本日のゴールへ向かいましょう



【本日のメニュー】

1 ウォーミングアップ

- ・ココロを動かす「オノマトペ」をさがしてみましよう！

2 リベラルアーツと読書

- ① VUCAの時代とリベラルアーツ
- ② リベラルアーツとしての読書のアニメーション

3 読書のアニメーション体験

- ① 『わたしは樹だ』 マッピングメモ
- ② 群読で、協働（コアワーク）
- ③ ブックトークでコミュニケーション

4 シェアリング（まとめ・ふりかえり）

【本日の問いかけ】

※ご自分の考えや、わかったことを自由にメモなさってください。

※「正解」よりも、「問い続けること」「考えつづけること」を楽しんでください。

Q1 ココロを動かす「オノマトペ」とは？

Q2 VUCAの時代を乗り切るチカラとは？

Q3 そのチカラをどうやって身につけるのか？

Q4 リベラルアーツとは？

Q5 「自由」とは？

Q6 「真理」とは？

Q7 何から自由になるのか？

Q8 リベラルアーツが育むものは？

Q9 読書が育むのは？

Q10「アニメーション」しましたか？（感想など）

【読書のアニメーション体験】

『わたしは樹だ』 文：松田素子 絵：nakaban（アノニマ・スタジオ）※著作権使用許可済

（1）『わたしは樹だ』の中で、心に響いた言葉をマッピングメモしましょう



（2）私たちの『わたしは樹だ』を群読しましょう。

※マッピングメモの中から、ベスト1を選び、紹介してください。

※合いの手は「生きる・生きる・生きる」

（3）『わたしは樹だ』から連想した本（詩、絵本、小説、エッセイ、マンガ、映画、歌…）

★その本のどの場面・言葉・表現と『わたしは樹だ』のつながりは？

★どなたに、手渡したいと思いましたか？

【資料1 読書のアニメーション】※下線・太字（上原による）

もし自分から本を選ぶ自主的な子どもが育ったなら、その子どもは人生のいかなる場面でも、自由に手にした本の中から、豊かさや喜びをくみ取ることでしょう。また文字媒介のどんなメディアをも理解できたら、やはりその子どもは確固たる批判センスを持つであろうし、出来事について思い巡らすことができ、世の中で対処できる人になれるのではないのでしょうか。

子どもを「読み手として導くためのプラン」が必要になります。もし学校が、教えようという視点からではなく、育てようという視点から読書教育を計画するなら、この本の作戦を用いるととても簡単です。

表面的で、単に文字を追う「退屈な読書」から、「積極的読書」すなわち美しいものを味わう力を引き出すよう工夫されているからです。そういった力は、いつも子どもの中にあるのに眠ったままですが、段階に応じて、的確に方向づけられた読書は、その力を育むことが可能です。

※『読書で遊ぼうアニメーション』マリア・モンセラット・サルト pp.12-13 抜粋

【資料2 アニメーション】※下線・太字（上原による）

アニメーションの「アニマ (anima)」とは、ラテン語のアニマ (anima)＝魂・生命に発し、すべての人間がもって生まれたその命・魂を生き生きと躍動させること、生命力・活力を吹き込み心身を活性化させることを意味しています。英語のアニメーション (animation) と同義語です。

日本語に訳せば「活性化」ということでしょうが、残念ながらこれでは少々堅すぎで現代語にはピッタリ当てはまる言葉がありません。しかし古語をたずねますと『梁塵秘抄』の中などでつかわれている「…遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ動がるれ」の「動(ゆる)ぐ」という言葉の持つ語感がピッタリではないかと思われま

アニメーションは教え・学ぶ営みであるエデュカシオンと違って、遊びや余暇や文化活動を通して、面白さ・楽しさ・歓びを追求しつつ精神を活性化させ、人間が豊かに成長していく独自の営みをとらえた概念であり、「学ぶこと」や「働くこと」をも根底から支える人間生活の根源的なエネルギーを生み出す機能といえるでしょう。

※『読書で遊ぼうアニメーション』「アニメーションとは何か」増山均 pp.6-7 抜粋

【資料3 社会文化アニメーション】※下線・太字（上原による）

社会文化アニメーションは、第二次大戦後の経済の成長期に、経済的価値と経済効率を追求するあまりに、人間的な生活を歪める危機的状況が生じたことに対抗しつつ人間本来の主体性と内面的な精神の活力や想像力を大切に、生活・文化・社会を活性化させていく方法理念。

フランスでは、1960年代の半ばから社会文化アニメーションをすすめる専門職のあり方が研究されて、1970年代に「社会・教育・スポーツ・文化の活性化にあたる専門職員」として国によって正式に専門職化がなされました。その専門職員をアニメトゥール（仏）、アニメドール（西）、アニメトーレ（伊）と呼んでいます。この本の中では、それら全体に共通する英語を使用して「アニメーター」と表記していますが、その専門性は、教える人＝教師とは違って、活動を一緒に楽しみながら、イキイキ、ワクワク、ハラハラ、ドキドキする心身の活性化を生みだし、取り組みへの主体性と生きる活力をひき出していくことにあるのです。

※『読書で遊ぼうアニメーション』「アニメーションとは何か」増山均 p.7 抜粋